

スポーツの実況中継のことば
—トリノ冬季オリンピック種目等を通して—

清水泰生

(日本マスターズ陸上競技連合)

スポーツ実況中継のことばにはどんな特徴があるのだろうか。スポーツ社会学等のアプローチの研究はあるが、言語学からのアプローチの過去の研究は、三宅(2004)三宅等(1999)の研究、清水(2007)清水等(2006)の研究ぐらいしかない。本発表では、トリノの冬季オリンピックのジャンプ競技、スピードスケート、スキーマルペン競技等の実況中継のデータを中心にトリノ五輪のスポーツ実況の文法的特徴、談話的特徴、音声的特徴を見ていった。その結果、大きく言って、次のことなどが特徴として分かった。

- ①競技時間が、実況のことばに関与している。たとえば、スキーマルペンはアナウンサーが一方向的に話している。そして解説者はその後の PTR を見ながら解説をしている。これはスポーツの競技時間と関係しているといえる。(同じことがスピードスケート 500 メートルもいえる。また、種目が違うが陸上の 100 メートル競走、走り幅跳びにもいえる) また、競技の時間が少ないので、フィラーが少なく、短文の連発である。
- ②競技を行う人数によって、実況のことばが違ってくる。スキーマルペンは一人で競技をするがスピードスケートは 2 人でセパレートコースなので、相手との関係はどうかなどの表現が多い。(例、岡崎、離しているぞ) またショートトラックは普通のスピードスケートとは違い、オープンコースであること、集団で滑るということ、競輪のように最後のラストで決まるという競技ルールの違いによって実況も違ってくるといえる。
- ③スーパー大回転は、競技中、アナウンサー、解説者の実況はほとんどない。これはテニスの実況とよく似ている。

最後に、これらの特徴を指摘した後、言語学からのスポーツ実況中継の意義重要性について述べる。